

# 府立とりかい高等支援学校



## 概要

自校の掲げる「企業就労を通じて自立と社会参加を促進し、社会に貢献できる人材を育成する学校」とする目標を踏まえ、経験年数の少ない教職員が多く、「生徒の実態に応じて教材を工夫するという視点が浸透していない」「教材の意図を十分に理解せずに授業を行っている」「自立活動と関連づけての授業の取組みが少ない」「チーム・ティーチングを有効活用できていない」等により、自立活動を授業づくりのポイントとした本テーマの設定に至りました。個別の教育支援計画や指導計画、自校で設置する専門学科の目標等との関係と、自立活動の意義や目標、教育課程上の位置づけ等を全体会や校内研修で確認し、指導案の作成や授業実践を通して理解を深めつつ、研究協議で全体共有を図りました。

## 実施スケジュール

### Research

7月 8日(水) 担当者、担当指導主事で、今後の進め方について打合わせ

### Vision

8月 27日(木) 全体会

### Plan

9月~ 学習指導案の作成・検討

### Do

11月 4日(水) 事前授業・授業後の協議

1月 20日(水) 研究授業・研究協議

### Check & Act

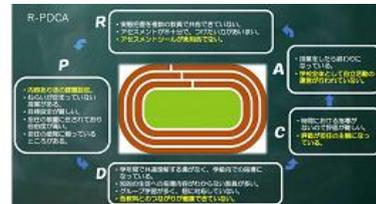
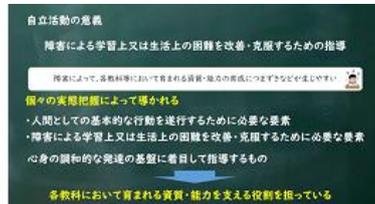
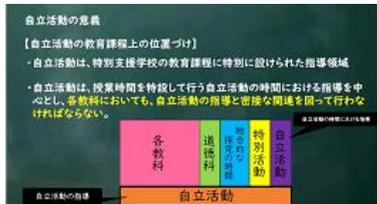
1月下旬 アンケート集約

## 全体会

### 8月 27日(木) 「自立活動」について

支援教育推進室指導主事より

学習指導要領自立活動編にある「自立活動の意義」と「目標」を中心に、自立活動教育課程上の位置付けを確認するとともに、自立活動の目標設定や実践、評価等に至るまでを PDCA サイクルを用いながら各ポイントでの現状と課題を共有、自立活動の理解を図りました。最後に、学習指導要領を踏まえての学習指導案作成のポイントについての説明を行い、全体会での研修内容としました。



## 研究授業

学年・教科： 高等部1年 「農業」  
 単元名： 「秋冬野菜(葉菜類)の収穫・調整作業・出荷作業」

### 自立活動に即した授業づくり

## 研究協議のポイント

自校の教育目標と専門学科の目標からイメージする生徒の「自立」した姿に向けての教材の選定と単元目標及び評価規準の設定、実際の栽培活動・体験から、植物(野菜)栽培の大変さや成長過程での植物の変化・変容への気付き、調理(加工)を通して食の大切さ等を実感しながら学ぶことができるような指導・支援の工夫等を計画し、指導案として作成を行いました。さらに、授業づくりのポイントである「自立活動」については、個別の教育支援計画と指導計画から個々の目標や指導・支援方法を指導者間で共有し、般化場面を通じて力の育成を図ることができるよう考えられていました。計画された授業実践を通して、「T・T の連携や動きで取り入れたいところ」と「自立活動の指導・支

援でよかったところ」について、4~6名程度のグループによる協議、発表を行いました。



## 成果

### 研究協議より(グループ協議資料より抜粋)

#### <チーム・ティーチング(T・T)の連携や動きで取り入れたいところ>

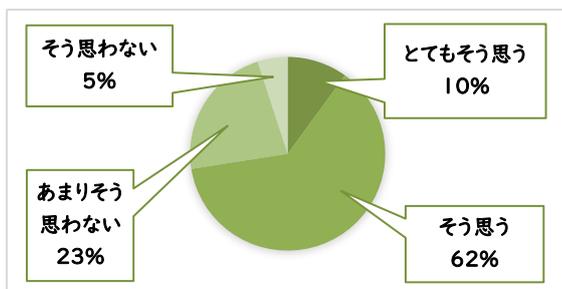
グループ協議で挙げられた内容をキーワードにすると、「共有」という言葉が挙げられます。「共有」の大切さや必要性について注目され、話し合いが行われました。授業の目標及び指導の意図、支援の方法等については、定期的に機会を設けた話し合いだけではなく、日常的に教員間で「目標を計画にした指導・支援」や「各教員の強みを生かした役割」、生徒の実態と日々の体調を考慮した「安全管理」等の「共有」を図ることで、自校の課題である「チーム・ティーチングを有効活用できていない」の改善に向けた取組みにつながることを再確認できました。

#### <自立活動の指導・支援でよかったところ>

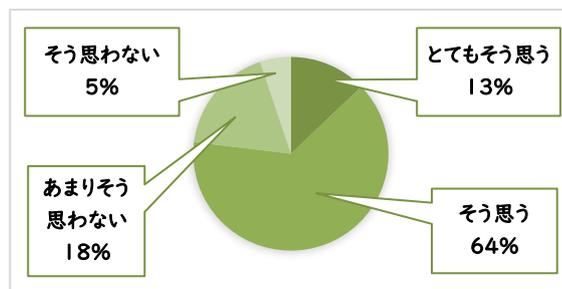
自立活動の指導・支援については、T・Tのあり方を見直すことで、「障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導」につながるという肯定的な意見が多く挙げられていました。今回のテーマ設定に至る自校の課題の1つである「自立活動を関連づけての授業の取組みが少ない」については、自立活動の目標が各教科の授業目標や内容とどのように関連し、般化することのできる場面を設定、力を育てていくのか、という点から研究授業を通じ、協議を行いました。指導案作成において、教科の目標と自立活動の目標の関係性や、双方の目標達成に迫る学習内容、指導・支援方法等の設定の難しさを協議とすることができました。

## アンケート結果

### ① 学校のニーズにんでいた



### ② 今回の成果を継続的に生かしていく



#### (感想やご意見より)

- ・ 高等支援学校においては、日々の授業を最も大切にしなければならないと思います。そこで、生徒の力の伸長は先生方の授業力の結果として表れるので、経験年数の少ない教員の多い本校にとっては、とてもよい機会となりました。
- ・ 経験の少ない先生方にとって、とことん一つの授業を突き詰めていく機会は、今後の自信にもなったと思います。
- ・ 今回、研究協議での話し合いを通して、「授業におけるサブティーチャーの動きの大切さ」を共有することができました。今後、自立活動の指導においても、サブティーチャーの動きに変化が見られていくことを期待しています。
- ・ 校内研究体制や意識改革など、本研修の授業者だけではなく、本校の教員一人ひとりが授業づくりや校内研修体制づくりへの意識を持ち、関わっていくことが必要だと感じました。
- ・ 指導案がT・Tのみの配付となっていたので、全体に配付することで通常の授業と自立活動のつながりを意識し、考えることができたのではないだろうかと思う。